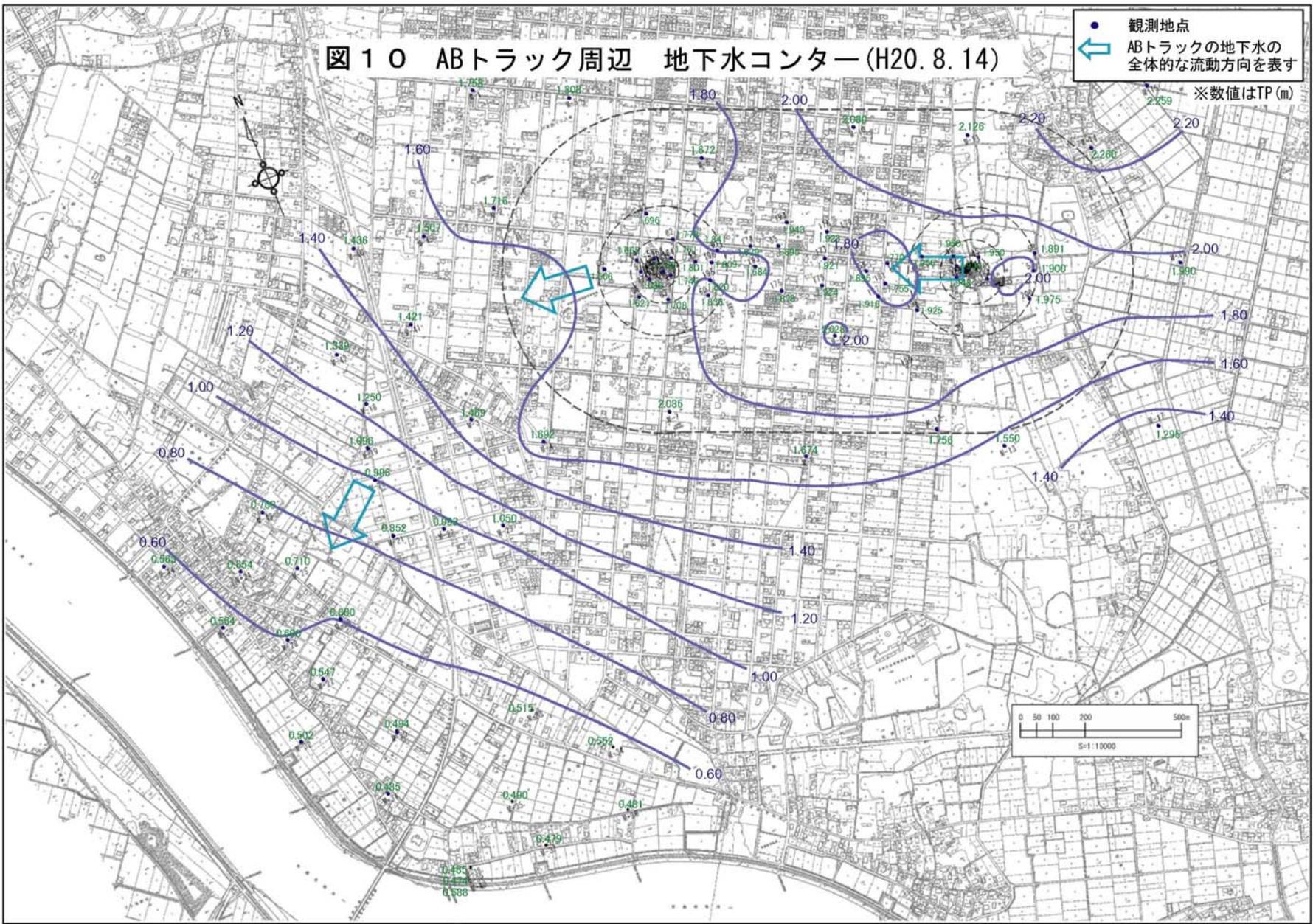


図10 ABトラック周辺 地下水コンター(H20.8.14)

● 観測地点  
 ← ABトラックの地下水の  
 全体的な流動方向を表す  
 ※数値はTP(m)





### 3. ジフェニルアルシン酸の分析結果

#### 1) A井戸近傍について (A地区)

##### ①春季DPAA汚染状況 (図-12)

A井戸付近で最も高濃度を示したのは、前回同様、A井戸の南東10mにある**No.37**の深度30mで、21.0mg-As/L (前回 28.0 mg-As/L) であり、次いで、No.37の直近にある**No.71**の深度30mで11.0mg-As/L (前回 18.0mg-As/L) である。いずれも前回より濃度は低下している傾向にある。**No.37**および**B-1井戸**を含むA井戸の南東10m付近は、低下傾向にあるものの今回も総じて濃度が高い。

前回高濃度を示したB-1井戸の南約7mの**No.68**の深度30mは、4.3mg-As/Lと前回15.0mg-As/Lと比較して今回は濃度が低下している。一方、A井戸から南に約25mの**No.42**の深度30mでは2.0mg-As/L (前回 0.21mg-As/L) とやや高濃度を示し、さらにその南である、グランドの南東側の**No.29**の深度30mで、初めて0.013mg-As/Lが検出された。グランド南西角の**No.28**はNDであった。

##### ②夏季DPAA汚染状況 (図-13)

夏季で最も高濃度を示したのはA井戸直近にある**No.34**の深度30mで、14.0mg-As/L (前回 5.7mg-As/L) である。次いで、A井戸の南西10mにある**No.39**の深度30mで13.0mg-As/L (前回 8.4mg-As/L) である。

前回最も高濃度を示した**No.37**や**No.71**、**B-1井戸**の深度30mでは、**No.37**で前回21.0mg-As/Lあったものが6.7mg-As/Lに、**No.71**が4.6 mg-As/L (前回 11.0mg-As/L) に低下している。**B-1井戸**では9.3mg-As/L (前回 9.4mg-As/L) である。

さらに、グランド南東角の**No.29**の深度30mでは0.013から0.037 mg-As/Lとなり、グランド南西角の**No.28**では今回は深度10m、20m、30mでそれぞれ0.075、0.082、0.11mg-As/LのDPAAが初めて検出され、A井戸の南側でも汚染が広がっていることが確認された。

##### ③DPAA濃度変化 (図-14)

A井戸から南西に約10m離れた**No.39**の深度30mは2006年の秋季以降低下傾向であったが、春季において8.4mg-As/L (前回 : 1.9mg-As/L) と上昇し、夏季にはさらに13.0 mg-As/Lとなっている。**No.39**の深度20mも高濃度を示した時期もあったが2006年春季から0.2 mg-As/L前後で安定していたが夏季において6.5 mg-As/Lと増加している。

グランド北西角の**No.27**の深度30mにおける濃度の推移はこの1年、1.2⇒0.59⇒1.2⇒2.1⇒0.76⇒0.95mg-As/Lとなり、変動はあるものの1回の観測で10倍を超えるような著しい濃度変動は確認されない。

2008冬季と2008春季のいずれかで10mg-As/Lを超える濃度を示した、A井戸の南東～南南東20mにある**No.68**および**No.69**の深度30mでは、1.1mg-As/L、0.21mg-As/Lと濃度が低下している。

#### 2) 掘削調査地点付近

##### ①DPAA濃度変化 (図-15)

掘削調査地点内では、2006年春から、掘削調査以前に設置していた観測孔と同様の場所で新たに観測孔を設置し、有機ヒ素を分析している。

また、掘削調査地点の北側のNo.182孔の代替として、シミュレーション等から得られた汚染経路

と考えられる箇所に、深度別のモニタリング孔を新設している（F-13～F-15）。掘削調査地点の各点の濃度は、これまで同様、浅層部（10m）の濃度が高く、深部（30m）の濃度が低い傾向にある。

ただ深度 10mの濃度はゆるやかではあるが低下傾向にある。コンクリート様塊があった **No.124**（F-2, 3, 4）の深度 20mでは、2008 年冬まで 10.0mg-As/L 以上であったが、6～7mg-As/L となっている。一方、同じ掘削調査地点にある **No. 83**（F-10, 11, 12）では深度 20mで 13.0mg-As/L（春季）、15.0mg-As/L（夏季）となり、高濃度で推移している。

掘削調査地点北側の F-13～F-15 では、深度 20mの濃度が最も高く、4.9mg-As/L（春季）、2.9 mg-As/L（夏季）となっており、次に深度 30mが 0.47mg-As/L（春季）、2.1 mg-As/L（夏季）と増加している。10mについては 0.015mg-As/L 程度でほとんど変化は見られない。

### 3) B地区について

#### ①春季D P A A 汚染状況（図－16、18）

これまでと同様、汚染域に大きな違いはなく、汚染は深度 30mを主体としている。B 地区中心を境に、南側の観測孔の浅層部の濃度が総じて上昇している。

B 地区の深度 30mで高濃度を示したのは、B 地区から東南東に約 160m離れた **No.195** で 0.29mg-As/L（前回 0.25 mg-As/L）である。B 地区中心部では西に約 50mの **No.173** の 0.28mg-As/L（前回：0.19mg-As/L）であり、20mで 0.2 mg-As/L、30mで 0.19 mg-As/L と D P A A が検出された。

深度 10mで高濃度を示したのは、中心から西に約 15mの **No.166** の 0.19 mg-As/L（前回 0.28mg-As/L）である。

#### ②夏季D P A A 汚染状況（図－17、18）

これまでと同様、汚染は深度 30mを主体としている。

深度 10mについて、2008 年夏季では汚染はほとんど見られず、B 地区中心から西に約 15m離れた **No.166** 地点の 0.005mg-As/L（前回 0.19mg-As/L）のみであった。

**No.195** では、春季に 0.29mg-As/L（前回 0.25 mg-As/L）を示したが、夏季においてNDとなっている。深度 30mで高濃度を示したのは、B 地区から北東に約 50m離れた **No.164** で 0.24mg-As/L（前回 0.31 mg-As/L）である。深度 30mの汚染分布は、B 地区中心部に集中している。**No.173** の 0.28mg-As/L（前回：0.19mg-As/L）が、夏季においてはそれぞれ 0.005、0.002、0.15 mg-As/L と低下している。

### 4) A Bトラックについて

#### ①春季D P A A 汚染状況（図－19）

A、B 地区以外のA Bトラック内では、これまで同様深度 30mで帯状に分布する汚染が主体となる。最も高濃度を示したのは、A 井戸と B 地区の中央付近にある **No.56** の深度 20mと 30mでそれぞれ 0.11 mg-As/L（前回深度 20m：0.002mg-As/L、深度 30m：0.054mg-As/L）である。

AB間の深度 10mはすべて、NDであった。

## ②夏季DPAA汚染状況（図－20）

夏季においてもこれまで同様深度 30mで帯状に分布する汚染が主体となるものの、0.1mg-As/Lを超える濃度は見られず、比較的濃度である。最も高濃度を示したのは、A井戸とB地区のほぼ中央付近にある**No.177**の深度 30mで、0.043 mg-As/L（前回：0.06mg-As/L）である。

AB間の深度 10m、深度 20mはすべてNDであった。

なお、春季において高濃度を示した**No.56**は、深度 20m、30mで、いずれもNDとなっている。

## 5) ABトラックの外縁部について（図－21）

春季においては、これまで比較的高濃度の汚染が確認され続けている**M-20**は、深度 30mで0.35mg-As/L（前回：0.27mg-As/L）であった。

常陸利根川に近い地域では、前回検出された同じ箇所の**M-25**、**M-27**、**M-29**で引き続き低濃度の汚染が確認された。

また、前回と前々回にも汚染が確認された**M-20**の北側の**M-18**において、今回0.002～0.04mg-As/Lが検出された。さらに**M-3**、**M-20**、**M-18**の汚染の外縁と想定される**M-3**の北側に新たに設置した**M-41**では、深度 20～40mにおいて0.036～0.042mg-As/Lの汚染が確認された。なお深度 10mでは0.004mg-As/Lである。

夏季においては、これまで比較的高濃度の汚染が確認され続けている**M-20**は、深度 30mで0.36mg-As/L（前回：0.35mg-As/L）とほとんど変化は見られない。

また、低濃度の汚染が確認された**M-25**、**M-27**は上昇傾向にあり、春季に僅かに検出された**M29**は、NDであった。今回**M-26**では初めて微量のDPAAを確認した。

低濃度の汚染が確認された**M-20**の北側の**M-18**と**M-19**においては、**M-19**の深度 30m（0.001mg-As/L）のみであるのに対し、**M-18**では深度 10～30mの採取全深度において0.002～0.006mg-As/LのDPAAが確認されている。さらに**M-3**、**M-18**、**M-20**の汚染の外縁と想定される**M-3**の北側に新たに設置した**M-41**では、前回に引き続き汚染が確認され、0.044～0.071mg-As/Lと、南西地域では**M-20**に次いで高い濃度となっている。春季のモニタリングにおいて**M-41**でDPAAが検出されたことを受けて新たに**M-45**、**M-46**（いずれも深度 50m）を設置したが、夏季に**M46**において深度 20mで0.031 mg-As/L、30mで0.011 mg-As/L、40mで0.003 mg-As/LのDPAAを検出した。

また、A井戸上流側の**M-14**の深度 30m、**M-15**の深度 10mにおいて、それぞれ0.002 mg-As/Lが検出された。